



国際会議 海外派遣・留学 主要外国人の来訪 国際協力協定 解体核プルトニウム処分協力

1. 国際会議

1.1 国内

期 間	開 催 場 所	会 議 名 及 び 内 容
2002年 1月30日～2月8日	大 洗	JNC/IPSN (仏国原子力安全防護研究所) 安全研究協力協定に基づく「SIMMER- 共同研究会」 SIMMER- コードの仕様及びコードの利用等につき情報提供及び関連事項の討議を行った。
2月4日～2月5日	東 海	JNC/CEA (仏国原子力庁) 先進技術協定に基づく「廃棄物パッケージの長期挙動に関する専門家会議」 関連研究分野の情報交換、共同研究の進捗状況の確認、及び今後の協力の検討を行った。
2月14日～2月15日	大 洗	「JNC/ANL (米国アルゴンヌ国立研究所) TREAT 炉を用いた新型燃料炉内安全性試験に関する共同研究契約に基づく専門家会議」 進捗状況の確認及び今後の研究につき討議を行った。
2月18日～2月19日	東 京	「MOX 利用国際セミナー」 サイクル機構の MOX 利用技術の開発成果や、海外の MOX 利用に係る動向の紹介、また MOX 利用の今後の展望等につき討議を行った。
2月25日～3月1日	も ん じ ゅ	「日欧高速炉協定に基づく調整会議 / 供用期間中検査及び補修技術に関する専門家会合」 高速炉の機器・システムにおける「供用期間中検査及び補修技術」にかかわるテーマにつき情報交換を行った。
2月25日～3月1日	敦 賀	「CEA ナトリウム学校との情報交換会議」 日仏双方のナトリウム取扱研修と資格認定に関する情報交換と CEA ナトリウム学校の講師によるナトリウム取扱技術に関する特別講義を行った。
2月26日～2月27日	大 洗	JNC/DOE (米国エネルギー省) 保障措置及び核不拡散に係る研究開発協力協定に基づく「透明性及びリモートモニタリングに関するワークショップ」 サイクル機構の研究成果をデモンストレーションすると共に、開発中の技術と成果につき情報交換を行った。
3月4日～3月6日	東 濃	JNC/NAGRA (スイス放射性廃棄物管理共同組合) 地層処分に関する共同研究に基づく「東濃ナチュララアナログ研究に関する技術検討会議」 今年度の成果と来年度の研究計画概要について技術的検討と評価を行った。

1.2 国外

期 間	開 催 場 所	会 議 名 及 び 内 容
2002年 3月11日～3月14日	カザフスタン共和国 セミパラチンスク	「JNC/カザフ NNC (カザフスタン共和国国立原子力センター) との EAGLE プロジェクトに係る技術会議」 技術討議、試験計画進捗状況の確認及びスケジュール調整を行った。
3月11日～3月13日	米 国 シカゴ	「JNC/ANL 高速炉における安全なナトリウム取扱技術に関する研究」技術検討会議 高速炉の廃炉におけるナトリウム処理、残留ナトリウムの安定化の技術等に関して討議を行った。
3月20日～3月21日	仏 国 エクサンプロバンス	「JNC/CEA 先進技術協定に基づく実用化戦略調査研究に関する専門家会合」 実用化戦略調査研究における「重要度指標」及び「シナリオ研究」に関して研究報告すると共に討議を行った。

2. 海外派遣・留学

派遣・留学先	期 間	人数	目 的
アメリカ オークリッジ国立研究所	2002年2月17日～ 2003年2月16日	1	長寿命核分裂生成核種の中性子断面積に関する JNC/ORNL 共同研究
スイス ポール・シェラー研究所	2002年3月3日～ 2003年3月2日	1	JNC/NAGRA（スイス放射性廃棄物管理共同組合）放射性廃棄物管理分野における協力協定に基づく高レベル放射性廃棄物及び TRU 廃棄物処分に係る研究

3. 主要外国人の来訪

訪 問 日	訪問場所	訪 問 者
2002年 1月22日～1月23日	大 洗	露国原子炉科学研究所 Skiva 副所長
1月25日～1月30日	もんじゅ 東 海	米国サンディア国立研究所 Eagan 副所長
2月6日	もんじゅ	仏国原子力庁 Bouchard 原子力局長
3月6日～3月7日	東 京 もんじゅ	OECD/NEA Echavarri 事務局長

4. 国際協力協定

なし

5. 解体核プルトニウム処分協力

(1) 余剰核兵器解体PuのBN600における処分法検討のためのBFS-2施設を用いた実験的研究に関する共同研究

ロシア物理エネルギー研究所（IPPE）との共同研究契約に基づき、BFS-2（臨界実験装置）を用いた臨界実験及び臨界実験結果の解析評価を行っている。

(2) 余剰核兵器解体Pu処分のためのBN600用MOX振動充てん燃料集合体3体の製造及び照射実証試験に関する共同研究

ロシア原子炉科学研究所（RIAR）との共同研究契約に基づき、解体Puを用いた先行照射試験に関し、3体の試験燃料集合体を製造し、BN600にて照射試験を行い、2002年3月9日照射を無事完了した（最大燃焼度11.1at %）。今後、冷却のため炉内貯蔵ラックで保管され、2003年2月に照射後試験を開始する予定である。

(3) バイバック燃料を用いたBN600フルMOX炉心化に係る詳細作業計画と主な実施コストの評価に関する共同研究

IPPE との共同研究契約に基づき、フルMOX炉心用の燃料製造施設建設コスト評価を中心とした調査を行っている。

(4) 振動充てんMOX燃料を装荷したBN600ハイブリッド炉心及び燃料の設計に関する共同研究

ロシア実験機械製造設計局（OKBM）との共同研究に基づき、BN600ハイブリッド炉心化のための炉心及び燃料設計を行っている。

(5) 振動充てんMOX燃料を装荷したBN600ハイブリッド炉心の安全解析に関する共同研究

IPPE との共同研究契約に基づき、BN600ハイブリッド炉心化に際してその安全性について、評価及び解析を行っている。

(6) ロシア余剰核兵器解体プルトニウムを用いた振動充てん燃料製造に関する共同研究

RIAR との共同研究契約に基づき、BN600ハイブリッド炉心へ燃料供給する設備の設置等を行っている。

（本社：国際・核物質管理部）